

第8分科会「千葉市の里山と農業」

テーマ：里山と都市住民との交流

日時：2008年5月25日（日）10:00～13:20

場所：千葉市富田都市農業交流センター

参加者：38名

スタッフ：石川 俊夫（農政部部长）、須藤 芳房・小倉 文夫・萩原 康弘（農業振興課）、加藤 憲司・石川 操（営農指導課）、田野 孝夫・西村 和広・木村 俊光（グリーンビレッジ推進課）、今関 昭夫・佐藤 周二・佐々木 教子（農政課）



趣旨

千葉市に農業・自然・農村部があること、千葉市の里山保全への取り組みや、里山を形成する農業の施策について体験を通じ知ってもらうことを目的としています。

内容

千葉市は市域の50%が幕張新都心などに代表される都市部、50%は緑豊かな田園風景の広がる農村部と二つの顔を持っています。

鹿島川に沿って分布する若葉区の東部地区の15町を、自然環境に恵まれ主要な農業生産地域としてグリーンビレッジ構想地域と位置づけています。この地域では鹿島川がもたらす水が谷津を形成し、その水を使って農業が営まれ、集落が形成されてきました。台地では野菜を生産し、雑木林から林産物を得るといった地域の人々の暮らしが農村の原風景を作り、今その風景は貴重なものとなっています。

しかし、農業、林業、農村を取り巻く状況は厳しく、農産物の価格の低迷、担い手の不足や、農地や森林はほとんどが民有地であるということから、それらの産業、景観を維持をしていくことも大変困難になってきています。

千葉市では農業の持続的な発展と農村の振興を図り、農業・農村の有する多面的機能を重要視し、十分に発揮させていくため様々な施策を展開しています。しかし、千葉市にこれだけの農業・自然・農村部があることはなかなか知られていません。

そこで、千葉市の里山保全への取り組みや、里山を形成する農業の施策について紹介し、体験を通じ市民への理解を促すことを目的に、分科会を開催しました。

当日は里山指定地区の「いずみの森」や地域の農業者の畑を会場に、体験を中心とした分科会を予定していましたが、あいにく朝からの雨により、千葉市富田都市農業交流センターにおいて講義形式で実施しました。市内の合計38名の個人、ご家族に参加いただきました。



1. 千葉市指定里山地区「いずみの森」で学ぼう！

千葉市の里山保全について

森林・林業については将来にわたり森林の保全管理を推進するため、森林所有者・市民・行政が三位一体となって「豊かな森づくり」を推進しています。その一貫として平成13年に「里山地区指定」の制度を創設し、現在「いずみの森（若葉区富田町）」「ひらかの森（緑区平川町）」「おぐらの森（若葉区小倉町）」の3地区を里山地区として指定しており、その管理は市民ボランティアが行っています。

雨でボランティアさんの作業の実演がお見せできませんでしたが、里山保全の必要性や方法について説明しました。

・講座「いずみの森で見られる植物や動物」



講師の福田先生、谷先生（写真前頁）により、いずみの森で見られる植物や野鳥をスライドや、鳥の巣で説明いただきました。

いずみの森を構成する樹木はクヌギやソロ（イヌシデ、千葉ではこう呼ぶことが多い）、ヤマザクラの落葉広葉樹が中心で、5月の森ではザゼンソウなど多くの花も咲いています。

野鳥はウグイスなどの他、多くの野鳥が観察できるそうです。また、谷津を挟んだいずみの森の対岸にはかつてオオタカの営巣が確認され

ているそうです。雨が上がったので、会場前の原田池周辺の植物と野鳥観察会を行いました。講座の中で紹介されていた植物も見られ、参加者は興味深く観察されていました。

2. 千葉市の農業を体験しよう！

会場周辺には肥沃な農地が広がり、生産活動が行われています。近隣農家さんにご協力いただき、ジャガイモとニンジン収穫体験を行う予定でしたが、事前に収穫した農産物をみていただきながら千葉市の農業について説明を行いました。また、千葉市産農産物認証者制度など農業施策をパネル展示で紹介しました。地元実行委員会により毎年10月に開催するコスモス祭のPRも行いました。このイベントはボランティアさんが栽培作業をおこない、開催日には地元農産物の販売も行われ、多くの来場者でにぎわいます。

また、千葉エコ農産物の栽培基準（化学合成農薬と化学肥料を通常の半分以下に減らして栽培する）で生産したニンジンとジャガイモを材料に、地元農家さんの女性グループ「富田花の会」による料理の紹介と、レシピの配布を行いました。近年千葉市内にも直売所が増え、加工品の販売が好調となっています。普段食べ慣れている食材でも素材の美味しさが前に出ていました。（肉じゃが、ニンジン信田巻、ニンジン豚肉巻き、ポテトサラダ、ニンジンゼリー）

問題点と対策

農業や食、環境問題に関心が高まっている機運の中、まず市民に知ってもらい、身近な農業や自然に関心を持ってもらうことが必要と考えます。

三箇所の里山地区は自由に散策できるよう整備していますので、多くの方に訪れ、体感していただきたいです。様々な機会を通じ、PRしてまいります。また、市内の森林面積の割にはボランティアの人数がまだまだ少ない状況があります。森林をどのように保全していくか、大きな課題です。



まとめ

あいにくの雨で体験はできませんでしたが、地元にこのような地域や自然があることを知らない方が多く、参加者の皆さんには大変感心を持っていただくことができました。

多くの方が関心を持ち、農業者・市民・行政が三位一体となって命の根幹を支える農業、環境をどのように維持、保全していくか考えていかねばなりません。